

環境教育ワーキンググループのこれからの活動について（案）

1. 今後の方向性

総合的な学習の時間に頼らない湿原学習への転換

教科学習における湿原の学習を支援

湿原の持つ各種要素と学習指導要領の関連性の分析・整理、教材の開発、授業展開の例示など総合的な学習の時間に頼らない湿原学習への転換を後押しする新たな取組を検討

教員への情報発信、対応した教員研修の実施、周辺施設・団体との協力事例構築など

2. 平成 22 年度の環境教育ワーキンググループの取組み（案）

情報の収集と提供

湿原周辺施設等の学校を対象とする様々な情報を収集し、学校への情報窓口的役割を担うべく情報提供に努める。

学校と施設等の連携した学習事例については、概要をとりまとめ、施設の活用情報として学校及び施設間の情報提供に努める。

湿原を題材とした学習と教科学習との関連性の整理

湿原を題材とした学習と教科学習との関連性の整理を試行し、複数年をかけて具体的な授業展開案としてとりまとめ、学校への情報発信を目指す。

平成 22 年度については、専門家、教育行政、教員等へのヒアリングを行い、教科と湿原学習の関連（可能）性について整理を試みる。また、教科学習に関連した取り組みの創出に努める。

教員研修の実施

釧路教育研究センターと連携し、釧路湿原に対する新たな視点・気づきを教員と共有し、湿原の教育的な価値を捉えなおすことを目的とする教員研修を 2 回の連続講座として実施する。このほか、様々な機会を捉えて、湿原を題材とする教員研修の拡充に努める。

*スケジュール

2 月末：概要確定

3 月中旬：日程・内容等確定

4 月下旬（予定）：各学校へ案内の配布

7～9 月（予定）研修の実施